

ここ数年、密かに思うこと

公益社団法人日本包装技術協会

専務理事 酒井 光彦

ここ数年、国内・海外共に社会的な変動と天災に見舞われています。人災ならぬ天変地異は如何ともしがたいが、それとは別に、様々な会合やパーティの席で目につくのが若い人や女性です。いわゆる世代交代です。団塊の世代が一斉に企業から退職しはじめ、その後継者にあわてて人材育成や、各種会合に参加ということが表面化してきた現象です。若い人が出てくることは、その業界にとって明るい将来があるという証拠です。反面、大量に出現した退職者達、いわゆる高齢者の問題があります。先般、65歳以上が日本の総人口の23%になったと発表されましたが、いよいよ、日本は4人に1人は65歳以上という超高齢社会に突入しました。さらに、核家族化の中、高齢者の2人、そして1人家庭が増えており、新たに社会的孤立、孤独の問題がクローズアップされています。

日本から提案して出来た高齢者配慮の国際規格のもとに、包装は率先して高齢者対応の標準化を進めてきました。標準化の内容的には使いやすい、分かりやすい、開け易い、生活上の合理化でしたが、これからはさらに生活を楽しくさせる包装があっても良いのではないのでしょうか？廃棄処理、環境対応等からも合理化が重要ですが、単なる機能性だけではなく、一見無駄に見えますが、感動を呼び起こし、包装を大事にするようなデザイン、機能、形態の商品包装があってもいいのでは！、1人暮らしの孤独を慰める役割りといった分野を開拓してはと昨今、感じています。

また、ますますグローバル化が進み、中央であれ、地方であれ、関係なく無差別に世界の波が押し寄せてきます。今まではどちらかと言うと受け身的な体制でしたが、これからは、逆に国内から海外に発信すべき時です。海外の食品包装の特許登録件数を見ると、驚くべきことに上位30社のうち17社以上が日本の企業が占めています。この数字からも、もっと日本企業の活躍が期待され、さらに、地方の伝統包装なども海外に売り込むべきです。また、最近の人材教育を見ても、女性が段々、増えています。人口の半分が女性ですから、まだまだ開拓の余地があり、女性特有の感性が発揮されれば素晴らしい包装形態が現れるでしょう。かくして、日本の包装技術が世界を席卷するのも夢ではないと密かに思っております。

《INDEX》

本部報告	2
2012年包装界・10大ニュース	4
支部だより	6



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.114

ipp
news

ipp news
2013年1月25日発行
編集人／荒井拓哉
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

新年に想う。

日本包装管理士会 会長 井上伸也(5期)

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはご家族と共に、健康で楽しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2013年は我々包装に関わる技術者にとって実力を発揮するチャンス的一年であると考えています。それは、2011年3月11日の東日本大震災とその後の混乱を経験して、包装の本来の意義が見直され、再確認されているからです。特に食品包装用の容器包装においてその動きが顕著であり、昨年の「包装界10大ニュース」にも選定されています。液体容器へパウチの採用増加や、食品のロングライフ包装、ハイバリア容器の開発・採用の推進など、流通機構に良い影響を与える方向であると確信しています。

そして、私が考える、包装管理士をはじめとする包装技術者が実力を発揮する場の一つが、アクセシブルデザインへのニーズの高まりです。65歳以上の高齢者人口が3000万人を超え、日本の総人口の4分の1を占めるまでになりました。日本の超高速での高齢化は以前

から話題ではありましたが、長寿化とともに団塊の世代の高齢化が要因です。このような社会における包装商品の課題解決は包装管理士はじめ包装技術者が担うことなのです。単純なことで表現すれば、「易開封性」と一言で括られていたことでも、ユーザーとして働く世

代が主なる対象の場合と、筋力・握力が低下した高齢者が主対象となる場合ではあきらかに異なります。例えば飲料用ペットボトルキャップの開栓力、どの程度強く封緘し、いたずらに開封されない強度と弱い力でも開封できる方策の開発など強度、形状（デザイン）、素材などあらゆる角度からの検討、開発が必要です。包装は境界の無い、全てに連続した業界です。異業種交流が当たり前なのです。この特徴をより生かす方法を考える管理士が多数出現する事を願っております。

日本のそして包装管理士の潜在力発揮の年となることを願います。日々研鑽の成果を発揮して下さい。

昨年末の総選挙によるリーダーの交代が、日本経済復活に向けての第1歩になることを期待するのは私だけではないと思います。閉塞感の続く政治経済が一気に変わるとは期待出来ませんが、何らかの変化が起きることを期待し、本年が会員の皆様、ご家族にとって幸多き一年となるよう願っております。ご健勝にお過ごし下さい。



「2013年包装界合同新年会」会場にて IPPのメンバー

第47期包装管理士 誕生！



北海道支部「新・包装管理士を囲んで」



東北支部「第47期生懇親会」



関東支部「合格者の皆さん」



中部支部「第47期新包装管理士誕生の日」



関西支部「祝辞を述べる桃川支部長」



西日本支部「第47期包装管理士包装論文発表」

2012年包装界・10大ニュース

日本包装管理士会（IPP） 選定

① 家庭ごみに占める容器包装廃棄物の割合が過去最少になる

最新の統計によると、家庭ごみに占める容器包装の割合は、容積比で50.1%（対前年度－3.6ポイント）、重量比で17.8%（対前年度－5.5ポイント）と過去最少となった。特に最近2～3年の減少傾向は目覚ましいものとなっており、3Rの取り組みの成果と考えられる。また一般廃棄物最終処分場の残余年数も19.3年（前年18.7年）と伸びている。

② 酒、醤油用にスパウト付きパウチが続々販売

スパウト付きパウチは持ち運びに便利で、使用後は本体とキャップの分別や解体をせずに、丸めてそのまま廃棄することができる。また、冷蔵庫の隙間や空いたスペースで保管しやすく、これらの利便性に対する消費者の認知も深まり、醤油用途から清酒、焼酎、料理酒など、採用範囲が広がりつつある。

③ 「中国・プラスワン」の動きが加速

中国に対する市場（消費地）及び生産拠点としての魅力が低下してきていることに伴い、事業の縮小または撤退を検討する企業が増え、ベトナム、ミャンマー等へ拠点及び販売先をシフトする声も聞かれる。長期化すればさらに影響が拡大することも予測される。

④ 容器包装が、食品保存機能の役割として見直される

「使い終わったら廃棄される容器包装」という認識から、「容器包装によって食品の長期保存が可能になる、食品廃棄量を減らすことができる」という視点でロングライフ包装やバリア包装が見直され、開発に力を入れる企業が増えている。軽量かつハイバリアとなる容器の開発・採用が進められ、酸素吸収剤等のアクティブバリアの開発とも相まって、賞味期限の見直しを含めてパッケージのサプライチェーンにおける真の役割が強調されるようになった。

⑤ ペットボトルに世界最薄シュリンクラベルを導入

ペットボトルに世界最薄（18μm（マイクロメートル））のシュリンクラベルを、サントリー食品インターナショナル株式会社が入導した。「サントリー緑茶 伊右衛門」500mlペットボトルの一部への導入により、CO₂の排出量を50%以上削減することができるという。

⑥ 「温室効果ガス削減目標」を2030年に90年比20%削減に変更

政府は革新的エネルギー・環境戦略で、温室効果ガスの中期的削減目標について、2030年に、90年比で「おおむね

20%削減をめざす」と決め、従来の「2020年に90年比25%削減」（中期目標・国際的公約）と異なった内容が議論され、注目されている。

⑦ 「落ちないキャップ」が採用される「FROM AQUA」～谷川連峰の天然水～

ペットボトルのキャップを落とした経験があり、「キャップを落とす不安」を感じている人も多いことから、キャップ下部のリングと呼ばれる部分とキャップをバンドで繋ぐことで、ボトルからキャップが離れない「落ちないキャップ」が開発・採用された。

⑧ 製造業各社の2013年3月期決算見通しが赤字や大幅減額

長期円高や原油・資源の高騰などによるコスト上昇、2012年の欧州景気の更なる悪化、中国と新興国の景気減速に、中国での反日運動の激化が加わった。製造業各社は構造改革を進めたが、改革のスピードが環境変化に追いつかず、大手家電企業数社が連続赤字に陥っている。鉄鋼・自動車・重電・建機・化学などの産業分野でも軒並み厳しい状況で、GDP（7月～9月）も年率3.5%減で景気は後退局面に入る。国内包装産業は製造業各社の構造改革への対応が求められている。

⑨ 高齢者が3000万人を越し、アクセシブルデザインへのニーズが高まる

総務省の推定人口によると、65歳以上の高齢者人口は3074万人で過去最多になった。日本の総人口（1億2753万人）に占める割合も24.1%（前年比0.8ポイント増）と過去最高を更新した。75歳以上の人口も1517万人と初めて1500万人を超えた。また国勢調査では65歳以上の単身世帯数は高齢者全体の16.4%に達し、高齢社会に対応した容器包装の使い易さ等、アクセシブルデザインへのニーズが高まっている。

⑩ 「2012東京国際包装展」開催される

包装の最新情報が一同に集まる東京国際包装展が2012年10月2日～5日、東京ビッグサイトで開催された。開催コンセプトは「繋がる」で、特別企画として「東日本大震災に対して包装がどのように係わったか？」を展示。

入場者総数は17万人を超え、来場登録者数は65,311人（前回比105%）を数え、盛況裡に閉幕した。

日本包装技術協会が公益社団法人になってから最初の開催となり、参加者は入場料やセミナー受講料が無料になるという恩恵を受けた。また、今回初めて、海外の包装ジャーナリスト9名が招聘され、取材活動を行い、その取材記事がいち早く世界に発信された。

2012 年包装界・10 大ニュース 〈提案のお礼と候補の紹介〉

「2012年包装界・10大ニュース」の選定にあたっては、多くの会員の皆様からご提案をいただきました。厚くお礼申しあげます。

最終的に選定された10大ニュースの他にも、重要なニュースが数多く寄せられましたので、ご紹介します。

○業界初！燃えにくく炎の広がりを遅らせる 文書保存箱

プラス株式会社は、表面に燃えにくい材料を用いた段ボール製の文書保存箱「ワンタッチストッカー D型 フタ式 防炎タイプ」を発売。燃え広がりにくくなっている。

○ノンアルコール飲料市場が活況を呈している

飲酒事故や取締り強化の影響か、ノンアルコールのビール風味飲料等の市場が急拡大している。

○健康志向の表れか、トクホ飲料が、売れ行きを伸ばしている

キリンビバレッジが4月に発売した、特定保健用食品（トクホ）の「キリン メッツ コーラ」が爆発的なヒットを記録している。今後もトクホ商品に認定された商品の売れ行きが、気になるところだ。

○ポリ乳酸樹脂発泡体「バイオセルラー」が 「Sustainable Process Award」を受賞

積水化成成品工業(株)は、米国の国際プラスチック展「NPE2012」において同社製品「バイオセルラー」が「Sustainable Process Award」を日本企業として、唯一受賞したと発表した。

○北京国際包装博覧開催される

急成長の中国で開催

○減装ショッピングが3R推進協議会・ 内閣総理大臣賞を受賞

特定非営利活動法人ごみじゃぱんは、「学生が主体となり、スーパー等と連携して包装の簡易な商品を『減装（へらそう）商品』として明示。リデュース・リユース・リサイクル推進功労者として内閣総理大臣賞を受賞。

○AR（拡張現実）でパッケージが新しいメディアに進化

スマートフォンなどのタブレット端末の普及でARをより身近に体感できるようになり、容器包装分野でも、大手食品メーカーからパッケージにARを取り込んだ商品が登場し、新しいメディアとして注目されている。

○植物由来バイオプラスチック用途ひろがる

化粧品・日用品向けに植物由来プラスチックを使用したボトルやパウチの新たな商品が増えるだけでなく、深絞りタイプも業界初の植物由来プラスチックが採用され、用途が広がり始めている。

○再生原料使用率100%のPETボトルを飲料用途に導入

使用済みPETボトルを「メカニカルリサイクル」と呼ばれる手法で再生した原料を100%に引き上げたボトルを導入。「メカニカルリサイクル」原料100%のボトルは国内初。

○植物由来プラスチックのCO₂削減効果が国連に 認められる

植物由来プラを焼却する際に発生するCO₂を控除した温室効果ガス排出・吸収目録が国連の審査を通過。控除の対象は国内で使用されたポリ乳酸（PLA）と木質系プラでそ

の量は3200トン。

○再生原料使用に関する指針決定、個別承認制度 始まる

紙とプラスチックの再生原料使用に関するガイドラインが発表され、これを食品用器具・容器包装に利用する際は、個別の事例ごとに安全性評価を実施した上で使用の可否を決定する制度体系が構築される。

○包装資材の納品条件にFSSC22000の認証取得が 求められる

日本コカ・コーラ社がサプライチェーン各社に対して、食品安全マネジメントシステムFSSC 22000の認証取得を要請。日本で同規格に対する関心が急速に高まりつつある。

○バリア包装の技術開発がすすむ

容器の軽量化にともなって低下するバリア性を補完し、軽量かつハイバリアとなる容器の開発が進められている。パッシブバリアだけでなく、酸素吸収剤等のアクティブバリアの開発も進み、採用品も増えている。

○宅配・コンビニ配送用での電気自動車導入

○宅配便業者の統合／日通ペリカン便の譲渡

○大阪；梅田阪急百貨店完全改装グランドオープン

大阪駅JR伊勢丹・大丸梅田店に引き続き、大阪阪急百貨店梅田本店 リニューアル完成グランドオープン。

○醤油「生」のパッケージ

従来、薄口・濃口などの名称で販売されていた醤油が、「刺身用」「卵ごはん用」など料理カテゴリー別に販売拡張され、ついに「生」醤油の品名でキッコーマンが販売。

○食品用器具及び容器包装における再生プラスチック 材料の使用に関する指針

厚生労働省医薬食品局食品安全部より

○ロフトが岩手に進出

○「JIS Z 0108 包装一用語」の改正

JIS Z 0108:2005（包装用語）は、2007年にISO 21607（包装一用語）が制定されたことから、記載方法、用語記載の枠組、名詞と動詞との扱いなどの変更で改正した。

○「JIS Z 1403 枠組箱の構造」の改正

JIS Z 1403:2003（枠組箱）は、日本、中国及び韓国の国家規格統一のため、2008年にAsian standards in packingが制定された。このASP規格がISO規格として審議されていることから国際化を踏まえ、改正を行った。

○尖閣諸島問題が包装業界にも影響

○サントリー・加藤芳夫氏がパッケージデザインの 殿堂入り

サントリービジネスエキスパートの元デザイン部長、加藤芳夫氏が個人としては日本人で初めて「国際コンペ Pentaward」の名誉賞を受賞した。「なっちゃん」「BOS」「伊右衛門」など数々のデザインが高く評価されたもの。

北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井 幸彦 (36期)

新年明けましておめでとうございます。

北海道は例年にない暑い夏が終わったと思ったら、あっという間に寒い冬が到来し、札幌市内も降雪の影響にて交通渋滞の毎日です。北海道経済もなかなか晴れ間が見えない状況が続いています。

昨年、農産物は割と天候に恵まれ、米、野菜共まずまずの収穫だったと思います、反面、水産関係はサンマ漁が海水温の影響により魚体の小型化の為生食、本冷、加工向けも少なく包装資材の使用も昨年の半分程度に終わり、又秋鮭漁も悪かった一昨年より更に悪く10万トンを超え、包装資材に多大なる影響を与えました。今年は晴れ間を期待したいところです。

2013年は包装管理士会会員の皆様並びに所属する企業がよい年になりますよう御祈念申し上げます。

【ゴルフコンペ開催】

昨年9月8日に包装技術協会北海道支部並びに包装管理士会北海道支部共催によるゴルフコンペをスウェーデンヒルズC. C (当別町) にて開催致しました。

当日は残暑厳しい中、8名の参加を得て全員仕事とは違う顔を見せて、グリーンのラインを真剣な眼差しで読んでいたり、和気藹藹の中にも厳しさを覗かせながら楽しい1日を過ごしました、来年はもっと参加者が増える事を期待します。

【包装管理士合格証書授与式及び包装懇話会】

11月15日13時30分からチサンホテルにて第47期包装管理士合格証書授与式を包装技術協会本部より酒井専務理事に出席いただき行いました。今回札幌会場受講者16名全員が合格し、伊東支部長より合格者一人ひとりに合格証書を授与され包装管理士としての第一歩を

踏み出し、その顔には包装のプロとしての自覚が漲っていたようでした。その後合格者の論文・レポート発表を40名弱の聴取者に熱弁を振るっていました。



第47期包装管理士合格証書授与式

授与式後に(株)ミツカン MD本部開発技術部開発技術課長 榎本直樹氏を講師に迎え「伝統と革新 納豆業界における非常識への挑戦 金のつぶ パキッ!とたれ」と題して包装懇話会を開催、ミツカンの納豆の試食もあり、革新の陰には常に常識に囚われず、非常識への挑戦こそが新しい物を産むとの話を美味しい納豆を食べながら参加者一同納得致しました。

懇話会の後は同ホテル内の別会場にて新包装管理士を囲んで懇親会を実施、新包装管理士全員に今後の抱負を語って貰い、更に参加者全員によるスピーチ等、和やかな雰囲気にて、またIPP入会勧誘も同時に行い最後に参加者全員にて集合写真を撮り笑いの中終了致しました。

東北支部だより ●●●

東北支部 副支部長 斎藤 昇 (13期)

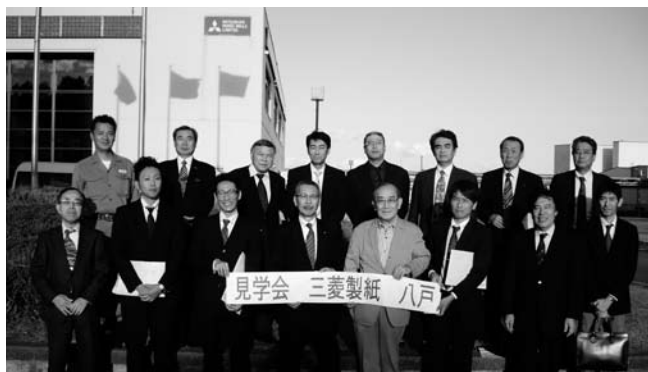
◆「地域交流会 in 八戸」開催

平成24年10月19日 (金)

支部総会・見学会・講演会等への参加が地域的に参加しにくい会員のために、八戸市で開催しました。

○見学会は八戸市沿岸に位置する、紙の一貫生産をする三菱製紙八戸工場を見学させていただきました。

工場は大震災の復旧がある程度落ち着いた時期でした。昨年の大震災では、防潮堤がない立地条件のため津波が直撃、建屋の壁下4Mほどが津波で破壊されたため、新しくした壁が多々見られました。(海拔を入れると津波高さは8.5mになる。)



見学会「三菱製紙八戸工場」

P7に続く→

P6から続く→

○場所を移動して八戸市内のホテルで講演会を開催。

テーマ「食品保全・食品ロス削減への包装の役割」
講師は有田俊雄氏（2日後に海外出張の忙しい中、遠くから八戸までお出でいただきました。）

○懇親会開催（講演会と同じホテルで）

講師の有田俊雄氏を囲んで、普段は会えない会員との情報交換をしながら懇親を深め、大変有意義なひと時を過ごしました。

◆講演会「日産自動車における物流技術革新」

平成24年11月1日（木）

「日産自動車における物流技術革新」のテーマで講演会を開催しました。その後、日頃の研究成果・改善事例を発表し、相互啓発と交流を深める「支部包装技術研究発表会」が開催され、2件の発表が行われました。

その後、JPI本部酒井専務理事をお迎えし、第47期包装管理士合格証書授与式・懇親会を開催し、

IPPへの入会勧誘を行い、先輩会員達とも懇親を深めました。

◆今後の予定

平成25年1月22日（火）新年賀詞交換会

今年は協賛団体の都合でJPI東北主催の単独開催ではなく東北生産性本部・IE協会・JPI東北の3団体主催で開催します。

場 所：仙台市内 江陽グランドホテル

15：30～ 賀詞交換会前に講演会開催

テーマ「トヨタ自動車の競争戦略」

講師 トヨタ自動車 技監 林 南八氏

17：30～ 新年賀詞交換会



講演会「日産自動車における物流技術革新」

中部支部だより

中部支部長 倉知 真治（25期）

支部活動のその後について

「歳月人を待たず」ー平成24年も早や年の暮れとなりました。

先日の12月6日（木）は、JPI中部支部と共催で包装研究懇話会を実施しました。この会では愛知県が次世代のものづくり技術の創造発信の拠点として2005年開催の愛・地球博会場の跡地の一部に施設整備した「知の拠点」を見学しました。大学の研究シーズを企業の事業化に繋ぐ産学行政での共同研究プロジェクトを実施する位置づけで、そのための高度かつ汎用的な計測分析装置を備えて企業の研究開発を支援するものです。その中で異彩を放つものが「シンクロトロン光利用施設」です。通常の光より何億倍も明るくかつ細く絞った指向性の赤外線から軟X線まで幅広い波長を含む夢の光ーシンクロトロン光は聞き慣れなれませんが、材料解析では大きな期待のかかる装置とのことでした。包装との関連性は直接的ではないとは言え、グローバル競争世界の中での技術開発の重要性に思いを致した次第です。

終了後は場所を名古屋市内に移して、来月1月

16日（水）に予定する2013年中部包装界賀詞交歓会について運営委員会を実施しました。IPP中部支部は中部包装界賀詞交歓会においてお年玉抽選会を担当することになっており、その手順や分担を協議したわけです。

6月の支部総会後にこれまで7月輸送包装、9月生活者包装、11月包装技術の各研究例会をJPI中部支部と実施、また10月には第47期の新包装管理士の誕生を祝って歓迎懇親会を実施しました。今後も会員多数にご参加いただける支部運営に努めて参りますが、そのために引き続きご支援をお願いし、合わせて来たる平成25年に期待するものです。



「知の拠点」の1階ロビーで

関西支部だより ●●●

関西支部 細田 基則（13期）

関西支部では会員の方々はもとより一般の方々にも広く門戸を開いて、技術・情報の交流の場としてミニセミナーや見学会を開催していますが、今年度前半の事業活動について紹介します。

◆ミニセミナーの開催

◇第13回 9月27日

①「輸送包装関連の研究動向」

講師：大阪府立産業技術総合研究所
中嶋主任研究員

②「企業とCSRの今後」

講師：大阪みどりのトラスト協会常務理事
平田通文氏



ミニセミナー会場

◇第14回 10月22日

①「エコパウチ包材の開発」

講師：大日本印刷(株)包装事業部関西開発部
辻本隆亮氏

②「カートリッジ交換式スプレー」

講師：(株)パックプラス企画・営業グループ
田中隆文氏

◆第3回IPP関西支部&W会合同研究会 8月22日

(W会とは女性だけで構成された包装等を考える会で、関西地区で活動されています)



第3回IPP関西支部&W会合同研究会

①「味の素、カルピスギフト設計事例」

講師：味の素パッケージング(株)包装生産技術センター 岡美奈氏

②「安心安全のための医薬品 UD商品の開発研究」

講師：LLCオフィスカラム・兵庫医療大学
非常勤講師 石崎真紀子氏

◆見学会&セミナーの開催

◇夏期見学会&セミナー 7月25日

①見学会 東洋製罐(株)茨木工場

②セミナー「東日本大震災と環境ISO」

講師：レンゴー(株)環境・安全衛生部環境課
山下毅氏



見学会「東洋製罐(株)茨木工場」

◇冬季見学会&セミナー 12月12日

①見学会 日本山村硝子(株)ガラスびんカンパニー播磨工場

②セミナー「2012年パッケージトレンド」

講師：凸版印刷(株)TICソリューション企画課
秦弘信氏

◆第47期 包装管理士講座合格証書授与式 (KPI)

10月26日

「生活者包装コース」53名、「輸送包装コース」33名の方々が受領されました。

桃川支部長が来賓祝辞を述べられると共に、包装管理士会加入案内を配布し、関西支部の活動についてPRして加入を呼びかけました。



「第47期生を囲んで」

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 中村 格勇 (26期)

A) 第47期包装管理士合格証書授与式 合格者：30名

期日：平成24年11月2日（金）17：00～17：40

場所：日本通運(株)福岡支店（7階A会議室）

議題：JPI酒井専務理事より挨拶・合格証書授与

IPP西日本支部長 宮崎社長（ワイルド化成(株)）

*合格者の皆様の今後を期待するものです。

B) 包装技術研究・事例発表会（第47期包装管理士包装論文発表）

期日・場所：同上

時間：14：30～17：00

①欧州向け壁掛け大便器の包装機能改善

TOTO(株) 石田直樹氏

②環境配慮と内容物保護を両立した包装事例

TOTO(株) 佐藤 賢志氏

③グラビア印刷加工におけるツーツー汚れの改善

丸東産業(株) 中西 弘氏

④医薬品個包装へのエンボス加工による点字表記の有用性

久光製薬(株) 屋嘉比達郎氏

⑤個装箱インクジェット捺印の擦れクレームの抑制への取り組み

田辺三菱製薬工場(株) 大藺政弘氏

*所属する企業での活躍を期待します。

C) 毎年「包装管理士」が誕生します

第47期を含めると、包装管理士有資格者総数：11,418名です。凄いと思いませんか！

JPI・IPP・企業・包装管理士・行政（環境、効率、法律など）の連携について、私は「夢」を見ています。

公益社団法人「日本包装技術協会（JPI）」の目的は「包装管理士」を世に輩出することではないでしょうか。

JPI認定の「日本包装管理士会（IPP）」は、「包装物流のスペシャリスト集団」です。

近年、包装管理士講座の受講者は、非常に多いと思われる。何故でしょうか？

市場、環境、法律などが複雑化した産業界は、包装・物流のスペシャリストを求めているからです。

しかし、JPI・IPP・企業・包装管理士は、同じ目線ではないのが現実です。目線を合わせ、受講時からIPP入会を義務化すべきであると考えます。

次の講座から規約改正し、加えて、国の認定資格とすべきです。

以上はあくまで西日本支部の中村の私見（夢）です。



第47期包装管理士包装論文発表

関東支部だより

「スキルアップセミナー」をスタート

関東支部副支部長 前川喜知也 (28期)

関東支部では、会員のスキル向上を目的として、「スキルアップセミナー」をスタートしました。毎回2時間、合計6時間の充実した研修を少人数で行うもので、本年度は特許研修とフィルム研修をテーマとし、9月14日に第1回、11月28日に第2回を実施しました。

テーマ／第1回：包装用フィルム樹脂の特性と用途

第2回：接着の基礎

講師：大濱健司

第2回の概要：接着剤の基礎知識(接着機構と接着剤の種類及び評価方法)について解説を頂きました。

接着剤の市場動向は、リーマンショック後の影響により減少したのではなく、産業構造自体の衰退と海外移転によるもので、需要別の出荷量では、2006年以降各種類25%以上減少してきている。主な接着剤種類別生産量も各種の接着剤がフェノール樹脂系接着剤を除いて、2006年以降25%以上減少している。

テーマ／第1回：特許実務研修

第2回：特許権の活用例とケーススタディ

講師：櫻田 賢

第2回の概要：特許権で稼ぐ方法を修得し、会社の利益に貢献する為の包装管理士の地位向上、活動しやすい環境作りについての話を頂きました。また、チームに分かれて、何を目的に、何を特許権で保護するか例題を基にディスカッションを行い演習しました。



第2回「スキルアップセミナー」

関東支部だより ●●●

2012年度 「第2回包装研究会」開催報告

関東支部副支部長 前川喜知也（28期）

平成24年10月15日（月）第2回包装研究会を開催しました。参加者に加え、4名の消費者団体の方が参加されました。

テーマ：「暮らしの包装商品について」

講師：奥田 明子氏

（東京都地域消費者団体連絡会代表委員）

講演内容：9月に開催された「暮らしの包装商品展」で行われた消費者アンケートの内容及び結果について講演していただきました。

贈答用と自分が使用する時に購入する商品の包装形態の選び方について、贈答用は、従来のビン、金属缶などの比率が高く、自分用は、PET、紙製品、ポリ

等を選ぶ傾向があるという興味深い内容でした。

今後も継続して話し合いの機会を持ち、意見交換をしていきます。



都地消連・奥田明子氏の話に聴き入る

関東支部 秋期見学会開催

関東支部 田村 正幸（27期）

今回は武州製薬株式会社川越工場を見学しました。1981年にノバルティスファーマ社の前身であるサンド薬品により建設され、1998年にシオノギ製薬に引き継がれて1999年1月から営業を開始した工場です。医薬品の受託製造をおこなっていて、錠剤、顆粒、粉末の製剤製造とPTP、分包、スティックの包装、さらにアンプル、バイアル、チューブ、注射剤などの中間製品検査や包装も受託しています。

2班に分かれて工場内を見学しました。廊下棟を中心に左右に機能別に建物が分かれています。はじめに製剤棟を見ていきました。見学通路から窓越しにクリーンルーム内の打錠設備と錠剤の自動検査選別検査を見ました。続いて品質管理棟を見学しました。各室毎に原料、包装資材、中間製品と最終製品の試験や分析などの検査をしています。時間の制約もあり残念ですが包装棟は見学できませんでした。次に自動立体倉庫と自動搬送車の組み合わせによる工場内物流システムを見ていきました。効率化とバーコードによるコンタミ防止のシステムです。原材料、中間製品、製品を搬送する自動搬送車が、賢く動きまわっています。工場内の搬送と工程間の搬送効率を高めながら、徹底した人と物の動線を構築してコンタミ防止に努めています。

今回の見学では、普段目にすることがない製薬工

場現場を経験することができ、見学したみなさんも非常に役立ったと思います。



武州製薬株の正門前で

最後にお忙しい中最後まで丁寧に説明して下さった武州製薬の皆様、本当にありがとうございました。



見学を終え、のどを潤す

全日本包装技術研究大会 支部交流会（幕張）

2012年11月29日・30日、幕張メッセ国際会議場で「第50回全日本包装技術研究大会」が開催され、多数の参加者により、盛況理に行われました。

初日の研究発表終了後には、さまざまなグループが交流会を行いました。関東支部、東北支部、関西支部などのメンバーにより、支部交流会が行われました。

幕張で支部交流会



第47期包装管理士合格証書授与式（東京会場）

関東支部 事務局

平成24年10月26日（金）、秋葉原UDXにおいて第47期包装管理士 東京会場合格証書授与式が行われました。東京会場では、194名の方が合格、新・包装管理士が誕生しました。授与式では、（公社）日本包装技術協会、常務理事 古屋事務局長から代表者に合格証書が手渡されました。表彰の後、日本包装技術協会 古屋 一常務理事の主催者挨拶、日本包装管理士会井上伸也会長の来賓祝辞があり、福野壽史関東支部副支部長の音頭による乾杯により懇親会を行いました。



第47期包装管理士合格証書授与式（東京会場）

「バンコク・プロパックASIA 2012」視察報告会開催

関東支部副支部長 古平 篤（25期）

8月22日、株式会社文昌堂の10階貸会議室で、タイ・バンコク・BITECで6月13日から16日まで開催された、「PROPAK ASIA 2012」の視察報告会が開催されました。報告は関東支部の古平 篤（IPP関東支部副支部長）、荒牧哲（IPP本部理事・関東支部監事）が行い、「PROPAK ASIA2012」の視察を中心に、タイ・包装協会メンバーとの交流会、スーパーマーケットの市場調査、タイの交通・物流事情など、生き生きとしたタイの情報報告がありました。

後半は報告内容の活発な意見交換や自己紹介を行い、20：30に閉会となりました。

関東支部では1年に1回、海外視察を行っています。来年からは、IPP全体から視察者を募集したいと考えています。



タイ・バンコクの情報に熱心に耳を傾ける

IPP映像研究会「第9回写真展」と忘年会を開催

IPP映像研究会 古平 篤（25期）

第9回写真展（会長：五十嵐誠）が横浜の山手234番館にて11月22日～27日まで開催されました。秋風の渡る会場には、テーマ「はな」の華やかな写真作品が展示され、明るい仕上がりで、各自の自慢の力作が3点ずつ展示されました。

今回は3連休と重なったので814人がご来場され、大いににぎわいました。



秋風の渡る横浜の、山手234番館で

初日の11月22日17時30分から楽しいオープニングパー

ティが、例年どおり港の見える丘公園のパークヒルホテルで開催されました。

12月19日～来年1月17日までは、写真展に出品した皆さんの選りすぐりの1点を、JPIのロビーに展示する「ベストワン写真展」を開催します。

また、12月1日には、東京・文京区・根津の串揚げ「はん亭」で忘年会が行われ、9名が参加し、先日横浜の山手234番館で行われた、「第9回楽しい写真展」の反省および今後の予定についての情報交換を行いました。

新年会はアサヒビールのゲストルームで、2013年2月2日、土曜日の予定です。



来年も素晴らしい映像が撮れそう

東京パック会場で、「タイ包装協会」 と交流会を実施

2012年10月2日、東京ビッグサイトにおいて開催された「2012東京国際包装展」の会場で、タイから視察に来場された「タイ包装協会」のメンバー 80名とIPPのメンバーによって交流会が行われました。

当日はタイ包装協会・広報担当者とIPP・荒牧哲氏によるプレゼンテーション、および全員参加の意見交換が行われ有意義なひと時を過ごしました。



タイ包装協会とIPPのメンバー

会報 No.114をお届け致します。今年はTOKYO PACKがあり準備が大変でしたが、成功裏に終わりました。タイから、タイ包装協会（TPA）の方が約80名視察に来られ、IPPとTPAの交流会も盛大に行う事ができました。

さて、現在、会報は年2回発行されますが、実際の活動内容は紙面を読んだだけではわかりません。

皆さんが実際に見学会、研究会等の活動に参加され体験していただければ良さがわかります。また、色々な人とのコミュニケーションを取る事ができ、仕事に役立ちます。これからも良い企画を立てますので積極的に参加される事を期待します。特に若い期の方のご参加をお待ちしております。

古平 篤 (25期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ippj.net/

■本 部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-1-2 17日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒530-6691	大阪市北区中之島6丁目2-27 中之島センタービル28F 日本包装技術協会内	☎ : 06-6444-6479 fax : 06-6444-6450
■西日本支部	〒800-0233	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6番3号 ワイルド化成株式会社内	☎ : 093-474-1211 fax : 093-474-1113

Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ	
氏 名	会員番号
社 名	番 平成 年 月 日届
所 属	
住 所 〒	
TEL	FAX
E-mail	
自 宅	
住 所 〒	
TEL	FAX
E-mail	